

ユニバーサル便り

～ユニバーサル農業の実践を通じた地域の中の農福連携～

発行：風の森ファーム&ユニバーサル農業研究会@ふくろい

1. 風の森サポーター募集！

このユニバーサル便りでもご紹介しているように、「風の森ファーム」では藍の栽培と藍染め、ブドウやシイタケの栽培と販売や、センリョウの収穫と販売等さまざまな活動をしています。これらの活動を支援していただけるような「風の森サポーター」を募集したいと思います。別紙のサポーター募集要項をご覧ください！

2. センリョウの収穫と販売

12月の毎日曜日に、サポーター有志の応援でセンリョウの収穫をしました。作業は、センリョウを刈り取る、70～80cm程度に切りそろえる、5本程度束にして袋詰めする等です。利用者さんにも袋詰め作業に参加してもらって、商品は「とれたて食楽部」（袋井市の農産物直売場）で販売しました。盛況のうちに完売しました！



センリョウの収穫作業



とれたて食楽部での販売



袋詰め作業

3. ブドウの剪定

ブドウ栽培で冬場の大事な作業である枝の「剪定」を1月に行いました。剪定は昨年に伸びて充実した枝を残し、貧弱なものは切除します。より美味しいブドウをたくさん生産するためには、必要不可欠で非常に重要な作業です。剪定した後は、竹の支柱を組んで、ブドウ棚の支えを作りました。剪定作業と支柱組立で、とても綺麗なブドウ園に生まれ変わりました。秋には美味しいブドウをたくさん収穫できるように、今年もまた頑張ります。



ブドウの剪定（専門家からの指導）



ブドウ棚の補強作業



剪定完了後のブドウ園

4. シイタケの栽培と里山管理

現在、シイタケの原木栽培を小規模に行っていますが、今年からは空きハウスを活用して、栽培を拡大していきたいと考えています。森町のNさんの雑木林で、林業家の天野さんの協力のもとに原木の切り出しをしました。この原木シイタケの栽培と地域の里山管理とを組み合わせれば、と考えています。



原木シイタケ（楡木の玉切り）

今月のコラム：「地域通貨」について

「地域通貨」とは、限られた地域やメンバーの中でのみ発行され、使用される貨幣である。日本では1990年代後半から導入が進み、これまでに800種類以上の地域通貨が考案されている（休止のものを含む）。最近では従来の紙幣や通帳式のものに加えて、スマホで扱えるデジタル式のものも使用されている。

地域通貨は手作りの品やボランティア、ちょっとした心遣いや感謝の気持ち等のモノやサービスも対象となるので、自分ができることを必要としている人に提供するという仕組みである。したがって、地域に存在する資源を最大限に活用しながら、相互扶助を促進し、人と人との信頼関係を強化することができる。

地域通貨の活用にあたっては、その地域通貨だけの「価値」を生み出す必要がある。また、「使い方」だけではなく「入手方法」で特徴を出すことがその魅力につながる。地域通貨は地元で発行して、地元で使う“お金の地産地消”ともいえるもので、地域の経済活動を支える手段ともなって、お金や資源の地域内循環や地域活性化に通じる。

コロナ禍に伴いユニバーサル農業研究会の意見交換会などの活動が制限されているために、このプロジェクトに関するご意見やご感想をお寄せ頂ければと考えます。皆さんからのご連絡をお待ちしています。

E-mail: universal.agr.2018@gmail.com
[@universal.agr](https://twitter.com/universal_agr)

↑ツイッターもよろしく！